

[]	とすべきところを誤って[]	を調剤
[]	とすべきところを誤って[]	を調剤
[]	とすべきところを誤って[]	を調剤
[]	とすべきところを誤って[]	を調剤

Q3-1. 医師のミスにより、勤務先の薬局などで薬名類似の別薬剤が処方された処方せ
んを鑑査した経験はありますか？

- () ある
() ない

Q3-2. Q3-1 で「ある」と回答した方にお尋ねします。医師が間違えて処方した具
体的な薬剤名を記入してください（複数ある場合は複数記入してください。記入欄がた
りない場合はコピー&ペーストで記入欄を追加して記入してください。）

例：[アマリール]との処方意図に、誤って[アルマール]を処方

[]	の処方意図に、誤って[]	を処方
[]	の処方意図に、誤って[]	を処方
[]	の処方意図に、誤って[]	を処方
[]	の処方意図に、誤って[]	を処方
[]	の処方意図に、誤って[]	を処方
[]	の処方意図に、誤って[]	を処方

ご協力ありがとうございました。

資料 II-2) 薬名類似に基づく処方ミスに関するアンケート結果

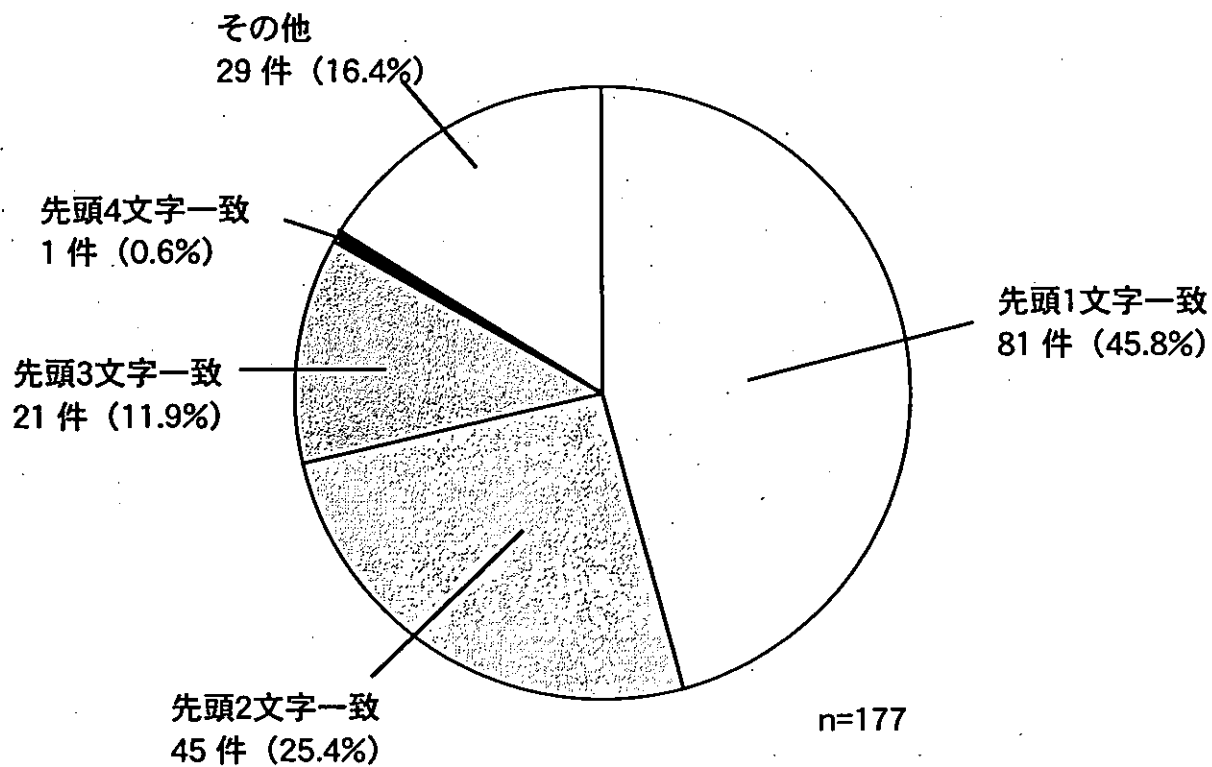


図 1. 医師による薬名類似に基づく処方ミスの組み合わせ

表 1-1. 先頭 1 文字が一致する薬剤の組み合わせ

アイトロール	アロシトール	セルテクト	セロクエル	ブルゼニド	プリンペラン
アスベリン	エスベリベン	セロクラール	セレクトール	ブレドニン	ブルゼニド
アダラート	アタラックス	ソルダナ	ソレトン	フロモックス	フリバス
アテレック	アロテック	タリオン	タチオン	フロモックス	プロマック
アテレック	アレロック	タリピッド	タガメット	ペリアクチン	ペルサンチン
アムロジン	アレロック	チアトン	チレオイド	ホーリン	ホリゾン
アラセナA	アフタゾロン	チウラジール	チラージンS	ホスミシン	ボスミン
アルサルミン	アミサリン	テオドール	テグレートール	ポントール	ボララミン
アルピナ	アンヒバ	テオドール	テルギン	メクロセリン	メリスロン
<u>アマリール</u>	<u>アルマール</u>	トランサミン	トスキサシン	メジコン	メプチン
アレロック	アロテック	ドルコール	ドグマチール	メジコン	メスチノン
アロマシン	アムロジン	ノルバスク	ノアルテン	メチコパール	メバロチン
エバミール	エパデル	ノルバスク	ノバロック	メトリジン	メドロール
オゼックス	オークル	バクシダール	バレリン	メリスロン	メジコン
オプラチン	アプラチン	バラシリン	バファリン	メリスロン	メレルル
クラビット	クロミッド	バレリン	バファリン	ラックビー	ラシックス
グリチオン	グランダキシシ	パントシン	バセトシン	リスバダール	リピトール
<u>グロリアミン</u>	<u>グリミクロン</u>	ピクロックス	ピオラクチス	リパンチル	リピトール
コニール	コートリル	ピソルボン	ピタメジン	リンブラール	リオレサール
ザイロリック	ザンタック	ファロム	フェルム	ルボックス	ルボック
ザジテン	ザンタック	フェロミア	ファロム	レボトミン	レンドルミン
サンリズム	ザンタック	ブスコパン	フスコデ	レンドルミン	レスプレ
セスデン	ゼスラン	フラジール	ファンギゾン	ロキソニン	ロヒプノール
セディール	セファドール	ブラダロン	フラピタン	ロプレソール	ロヒプノール
セフゾン	セルベックス	<u>フルイトラン</u>	<u>フロフトラン</u>	ロペラミド	ロルフェナミン
セフゾン	セスデン	フルカム	ブルサン	ワンアルファ	ワーファリン
セフゾン	セブンイーP	ブルゼニド	ブレドニン	大柴胡湯	大健中湯

青字は抗癌剤、赤字は経口糖尿病薬や筋弛緩剤等の注意薬剤を表す

表 2. 回答が多かった処方ミス (医薬品の組み合わせ)

薬剤 1	薬剤 2	回答件数
アマリール	アルマール	16
グリチロン	グリミクロン	13
ノルバスク	ノルバデックス	12
ムコスタ	ムコダイン	9
マイスタン	マイスリー	8
クラビット	クラリシッド	7
ムコスタ	ムコソルバン	6
ダンリッチ	ダントリウム	5
テオドール	テグレート	5
メイアクト	メイラックス	5
アスベリン	アスペノン	4
クラリス	クラビット	4
タキソール	タキソテール	4
ファロム	フェルム	4
プルゼニド	プレドニン	4
アテック	アロテック	3
アレック	アロテック	3
エクセグラン	エクセラゼ	3
オステラック	オステン	3
トレドミン	レンドルミン	3
ムコソルバン	ムコダイン	3
メチコパール	メバロチン	3

研究成果の刊行に関する一覧表

著書

著者氏名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年
澤田康文	澤田康文 (単著)	処方せん鑑査・疑義照会	南山堂	東京	2004 (印刷中)

※注：上記書籍は、本研究の結果を一部基盤として、処方せん鑑査と疑義照会に焦点をあてて再構成し、執筆したものである。4月10日現在未発刊であるため、実物は次年度の報告書に添付する。

雑誌

なし